

気候変動に対する 具体的な適応策について

気候変動に適応した治水対策 基本的な考え方（案）

適応策の基本的方向

治水は長期的な計画のもとに整備を進めており、これを継続する中で、外力の変化を適切に想定し、適応策として取り込んでいく

施設を中心とした観点からの適応策

- 外力の変化に対する施設の信頼性確保
- 既存施設の徹底活用・延命化
- 新規施設の整備

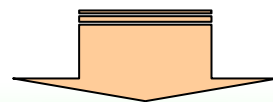
社会構造の見直しの観点からの適応策

防災対策を中心とした観点からの適応策

- 大規模災害への対応、体制の整備
- 新たなシナリオによるソフト施策の推進

適応策の進め方

- 予防的措置への重点投資
- 順応的なアプローチの採用
- 新たな技術開発と世界への貢献
- 調査・研究の推進と治水計画への反映



- 1) 洪水と地震等との複合災害も含めた被害の最小化
- 2) 暮らしやすさなどの社会環境や自然環境などと調和した国土の形成

気候変動に適応した治水対策 基本的な考え方(案)

適応策の実施方針

順応的なプロセスを取る上で、

- ・IPCC第4次報告書の発表時点での国内外の知見や政策・研究の動向を整理
- ・想定可能なレベルでの外力変化を検討
- ・分かる範囲で今後の見通しについて整理

【外力変化の見込み】

- ・洪水について、概ね100年後の流量増加の試算を概略行い、今後の治水計画上の目標設定の可能性は推測されたが、定量的に設定することは困難。
- ・海面上昇については、現段階で定量的に算定することは困難。

【研究の動向】

- ・2011年までに気候変動の予測や影響評価などに関するプロジェクトが実施
- ・2013年にIPCCの第5次報告書が出される予定
→ 概ね5年間で知見の進展、蓄積が見込まれる

- ・次の新たな知見の進展となるIPCCの第5次報告書が出され、定量的な目標が設定されるまでの5年程度の短期的な期間を第1段階として設定
- ・続く期間を第2段階として設定し、プロジェクト研究やIPCCの第5次報告書などによる新たな知見に基づいて設定される目標のもと、中長期的な適応策の実施方針を検討

気候変動に適応した治水対策 基本的な考え方(案)

適応策の基本的方向

治水は長期的な計画のもとに整備を進めており、これを継続する中で、外力の変化を適切に想定し、適応策として取り込んでいく

施設を中心とした観点からの適応策

- 外力の変化に対する施設の信頼性確保
- 既存施設の徹底活用・延命化
- 新規施設の整備

社会構造の見直しの観点からの適応策

防災対策を中心とした観点からの適応策

- 大規模災害への対応、体制の整備
- 新たなシナリオによるソフト施策の推進

適応策の進め方

- 予防的措置への重点投資
- 順応的なアプローチの採用
- 新たな技術開発と世界への貢献
- 調査・研究の推進と治水計画への反映

適応策の実施方針

【第1段階】

- ・目標に対し改修途上
 - ・設定期間が5年程度と短期間
- 既存施策の中で基本的方向を踏まえた施策を重点的に実施**
気候変動による外力の変化で治水安全度の低下する可能性が強いため、**治水安全度の低い箇所の対応を優先**

【第2段階】

- ・新たな知見に基づいて設定される定量的な目標のもと
- 既存施策中での実施を継続**
新規に効果的、効率的な対策を検討し実施

第1段階で重点的に行うべき施策

施設を中心とした観点からの具体的な適応策

【重要な視点】

新たな外力への施設対応

- ・破堤に対する壊滅的な被害をできるだけ防ぐため、施設の質的向上を図る
(耐浸透性、耐侵食性、耐震性の向上など)
 - ・流域や洪水調節施設でできるだけ洪水を貯める
 - ・海岸侵食の抑制や砂浜の回復、高潮に備えた海岸保全施設の老朽化対策や高潮対策の推進を図る
- オペレーションの高度化による対応

【具体的な適応策】

外力の変化に対する施設の信頼性の確保

- ・施設の質的強化

既存施設の徹底活用・延命化

- ・既存施設の長寿命化 ・洪水調節施設の操作方法の見直し
- ・ダムや貯水地等貯留施設の有効活用 ・河川と下水道の貯留施設等の最適運用
- ・総合的な土砂管理 ・予防的な管理手法の実施

新規施設の整備

- ・施設の着実な整備

第1段階で重点的に行うべき施策

社会構造の見直しの観点からの具体的な適応策

【重要な視点】

浸水しやすい所や土砂災害の危険な所での土地利用や住まい方の変更

社会構造の見直しの観点からの対応

・被害のあいにくい住まい方等への転換

防災対策を中心とした観点からの具体的な適応策

【重要な視点】

浸水した水からできるだけ守る 水防、避難、救助、復旧・復興体制の強化
分かりやすい情報を事前・発生時・事後において適切かつ的確に提供
地域の防災力の向上

【具体的な適応策】

大規模災害への対応、体制の整備

・被害エリアの拡大を防止するための氾濫流制御 ・危機管理・災害復旧の体制の整備
・広域防災ネットワークの構築 ・排水システムの強化 ・防災活動拠点の確保
・水防技術の向上 ・止水板・土のう等の常備への誘導

新たなシナリオによるソフト施策の推進

・ハザードマップの整備 ・観測・監視体制の充実・強化 ・適切な情報提供
・危機管理行動計画の策定 ・防災に関する知識の蓄積・普及

第1段階で重点的に検討すべき課題

計 画

目標外力の設定

- ・関係機関や研究機関と連携し、調査・研究の推進

治水計画の検討

- ・目標の立て方(外力変化にどこまでハード整備で対応するか)
- ・堤防のあり方
- ・流域貯留の方策
- ・氾濫原対策

技術開発

堤防強化技術の開発
洪水の予測技術の開発

施設の予防的保全技術の開発

手法・制度

洪水調節施設の操作方法の検討

海面上昇を的確に観測するための観測・管理体制の充実方策の検討

総合的な土砂管理のあり方

土地利用の見直しの検討